

令和2年度 生活支援コーディネーターの主な取り組み(高齢者等の暮らしを豊かにする地域づくりの支援)

### 1. 新型コロナウイルス感染症の影響に対する取り組み

生活に困窮する世帯の急増に加え、いきいき百歳体操やつどい・サロン(通いの場)等のあらゆる地域活動が停滞し、社会的に孤立しやすい状況が続いた中で、臨機応変に様々な取り組みを実施しました。

- ① ぎっちゃんのみごころお福分けネットワーク(+認知症高齢者を含む様々な人が活躍できる機会づくり)

コロナの影響で減収した世帯やひとり親世帯等へ白米などの寄付食品を提供しました(6月約380世帯、12月約240世帯)。その準備等に係るボランティアとして、認知症高齢者を含む延べ43名に参加・活躍していただきました。

- ② 感染対策を取りながら進める地域活動の推進

- ・ つどい・サロン等(通いの場)に代わる見守り訪問活動の促進
- ・ 地域活動の再開・実施に向けた留意点等を掲載した情報紙の発行
- ・ 地域活動に応用できるオンラインツールの使い方講座の開催
- ・ コロナ禍でも欠かせない生活支援ボランティアのオンライン情報交換会の開催 など

### 2. さんだ地域のつどい場マップの作成

市内各地域で開催されているつどい・サロンやいきいき百歳体操、コミュニティカフェ等の開催情報や写真・動画を掲載したネット上のマップを作成・発信しました。

※閲覧回数 13,390回 掲載か所数 97か所(R3.2時点)

### 3. 各地域での取り組み

- ① 地域での暮らしをより豊かにする仕組みづくり(地域資源の開発)

無料買い物送迎車の運行に向けた調整や、いきいき百歳体操グループ等の立ち上げ等、これまで構築してきた多様な主体とのネットワークを活かして、地域資源の開発に取り組みました。

- ② 地域で安心して暮らせるネットワークづくり(地域包括ケアの推進・ネットワークの構築)

見守りネットワーク会議や、生活支援ボランティアとケアマネジャーの交流会などを地域包括・高齢者支援センターと協力して開催し、住民と専門機関の連携促進を図りました。

- ③ 地域で生きづらさを感じさせない環境・風土づくり(地域共生社会の推進)

認知症を含む障害や生きづらさを感じている当事者と、その人が暮らしている地域で少なからずある偏見の解消に向け、学校や住民を巻き込んだ福祉学習や啓発事業を促進しました。